

令和元年度第1回四條畷市総合戦略協議会 会議録

| | |
|------|--|
| 日 時 | 令和元年10月31日(木) 10:00~11:00 |
| 場 所 | 市役所本館 3階 委員会室 |
| 出席者 | 石関委員(会長)、上村委員(副会長)、開原委員、小西委員、中川委員、中野委員 |
| 欠席者 | 鼎委員、宮田委員 |
| 事務局 | 藤岡総合政策部長兼魅力創造室長、中村魅力創造室課長兼主任、城野魅力創造室職員 |
| 議 題 | <p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>次第1 地方創生と四條畷市総合戦略について</p> <p>次第2 KPIの進捗状況について</p> <p>次第3 国の動向と本市の今後の対応について</p> <p>次第4 その他</p> <p>3 閉会</p> |
| 配布資料 | <p>① 次第</p> <p>② 座席表</p> <p>③ 委員名簿</p> <p>④ 資料1 まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」</p> <p>⑤ 資料2 平成27年度策定分 進捗管理シート</p> <p>⑥ 資料3 平成30年度策定分 進捗管理シート</p> <p>⑦ 資料4 国の動向と本市の今後の対応について</p> |

(文中敬称略)

| | |
|---------|---|
| 事務局 | <p>1 開 会</p> <p>それでは、定刻となりましたので始めさせていただきたいと思 います。皆様方には、お忙しいところお集まりいただき、誠にあ りがとうございます。</p> <p>本日の出席委員は6人、欠席委員2人でございます。四條畷市 総合戦略協議会規則第3条第2項の規定に基づき、委員の過半数 にご出席をいただいておりますので、会議が成立することをご報 告いたします。</p> <p>それでは、以降の進行を会長にお願いしたいと思います。</p> <p>会長、よろしくお願ひいたします。</p> |
| 石 関 会 長 | <p>それでは、ただいまから令和元年度第1回四條畷市総合戦略協 議会を開会します。</p> <p>事務局、本日の資料の確認をお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>本日の資料につきましては、事前に送付しております、資料1 まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」、資料2 平 成27年度策定分 進捗管理シート、資料3 平成30年度策定分 進捗管理シート、資料4 国の動向と本市の今後の対応について です。また、事前の送付書類に総合戦略【改訂】をお持ちいただ くようお伝えしておりましたが、お持ちいただいておりますでし ょうか。</p> <p>資料が揃っていない方や総合戦略【改訂】をお忘れの方はいら っしゃいますでしょうか。</p> <p>資料の確認は以上でございます。</p> |
| 石 関 会 長 | <p>2 議 事</p> <p>それでは、次第に沿って会議を進めます。まず、次第1 地方 創生と四條畷市総合戦略について、事務局から説明をお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>前回の協議会から1年以上経過しており、また昨年度の総合戦 略改訂後に委員に就任された方もいらっしゃいますので、地方創 生と四條畷市総合戦略に関するこれまでの経緯について、簡単に ご説明させていただきます。</p> <p>資料1まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」</p> |

の1ページをご覧ください。

人口減少克服と地方創生をあわせて行うことにより、将来にわたって活力ある日本社会を維持することをめざし、2014年12月に「まち・ひと・しごと創生法」が施行されました。地方創生とは、東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的とした一連の施策をいいます。

2ページをご覧ください。

「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国においては、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと総合戦略」を策定しました。「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、2060年に1億人程度の人口を確保するための中長期展望が示され、「まち・ひと・しごと総合戦略」では、2015年度（平成27年度）から2019年度（令和元年度）の5か年の政策目標や施策が示されました。

また、「まち・ひと・しごと創生法」では、各自治体においても「地方人口ビジョン」及び「地方版まち・ひと・しごと総合戦略」を策定することが努力義務とされました。本市においても、法の基本理念を踏まえ、2015年10月に、「四條畷市人口ビジョン」及び「四條畷市総合戦略」を策定いたしました。

次に、3ページ下段をご覧ください。

国の総合戦略には、施策の方向として、基本目標「地方における安定した雇用を創出する」「地方への新しいひとの流れをつくる」「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」の4つが掲げられております。

続いて、資料2の左列をご覧ください。

今申し上げました、国の4つの基本目標を踏まえ、本市では、「子どもたちのすこやかな育ちを応援」、「魅力と活力にあふれるまちづくり」を基本目標に掲げ、各関連施策に関してKPI、目標の達成度合いを示す指標を設定し、進捗管理を行ってまいりました。

しかし、各自治体において、地域特性に応じた独自の施策を実施しており、加えて、本市の人口減少が本市人口ビジョンに掲げた将来展望からさらなる減少傾向を示していることから、施策の改善が急務となりました。これらのことから、2018年（平成30年）9月に総合戦略の改訂を行いました。

総合戦略【改訂】12ページをご覧ください。

| | |
|---------|--|
| | <p>当初総合戦略に掲げていた「子どもたちのすこやかな育ちを応援」「魅力と活力にあふれるまちづくり」という基本目標を「親子がいきいき暮らせるまち」、「働きたい」を応援するまち、「もっと知りたい、ずっと住みたいまち」としそれにもとづく、各種関連施策と KPI を設定いたしました。</p> <p>本協議会におきましては、総合戦略の策定や改訂の際に各種専門的なご意見をいただくとともに、計画策定後の現在は、進捗管理を行っております。</p> <p>地方創生と四條畷市総合戦略について、これまでの経緯を中心に説明させていただきました。説明は以上でございます。</p> |
| 石 関 会 長 | <p>ただいま、事務局から説明がありましたが、何かご質問、ご意見等ございませんでしょうか。いかがでしょうか。</p> <p>続いて、次第2について、事務局から説明をお願いします。</p> |
| 事 務 局 | <p>KPI の進捗状況についてご説明いたします。</p> <p>2018 年度（平成 30 年度）に総合戦略の改訂を行いました。2015 年度（平成 27 年度）策定の総合戦略についても計画期間中であるため、現在、平成 27 年と平成 30 年の2つの総合戦略について、進捗管理を行っております。</p> <p>時間が限られておりますので、平成 27 年度策定分については全体の中から、KPI が基準値に比べ実績が比較的良かったもの、悪かったものを中心に引き上げさせていただきます。</p> <p>資料2 平成 27 年度策定分をご覧ください。</p> <p>平成 27 年度策定分では、「子どもたちのすこやかな育ちを応援」のなかで、最上段「子育てぽけっと利用件数」、3 段目「すこやか子育てチャレンジ参加者数」5 段目「授業で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたと思う児童・生徒の割合」が目標値を大きく上回る結果となりました。</p> <p>子育てぽけっととは、質の高いおもちゃを親子に貸し出しする事業です。平成 29 年度実績に比べ利用件数は減少したものの、引き続き目標値以上の利用実績を維持しております。また、令和元年5月から平日以外に毎月第2、第4土曜日にも利用できるようになったため、今後も目標値以上の実績で推移していく見込みです。</p> <p>すこやか子育てチャレンジは、健康づくりの取り組みや検診の参加に対しポイントを付与し、獲得数に応じて記念品と交換する事</p> |

業です。保育所などの関係機関の協力を得た啓発や、記念品の見直しなどにより参加者数が大幅に増加しています。今後は、共働き世帯などイベントに参加しにくい方にも事業に参画いただけるよう、制度の見直しを行う予定となっております。

「授業で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたと思う児童・生徒の割合」では、先進都市への視察や市内学力向上対策プロジェクトチーム会議、各種研修を通じて、「主体的、対話的で深い学び」の授業づくりが推進されたことにより、数値が向上したと分析しています。

一方で、同じく資料2の裏面にうつついただき、基本目標「魅力と活力にあふれるまちづくり」のKPIは、地域経済を支える産業の活性化の部分では、厳しい結果となっております。最上段の共通商品券の販売額では、昨年度から減少した要因としては、加盟店の減少による利用可能店舗数の減少や、商品券のセール時に天候不良が続き、売り上げが低下したことだと考えております。今後は、商品券の更なる周知を図っていくことで、需要を増加していきたいと考えております。

また、4段目のコミュニティバスの実績値についても悪化しており、通勤・通学者の減少を反映した結果となっております。こちらにつきましては、現在、地域公共交通会議において、市民アンケートやコミュニティバス利用者調査の結果に基づき、地域公共交通計画を策定している最中でございます。計画策定後には、コミュニティバスだけでなく、他の公共交通手段も含めた実証運行等が予定されています。

続いて、総合戦略【改訂】の13ページをご覧ください。

基本目標1「親子がいきいき暮らせるまち」では、安心して子育てのできる環境づくりを進め、子育て家庭を支える取組みを加速化させるとともに、質の高い教育環境を整備することで、親子がいきいきと暮らせるまちを創ることを目標としています。

基本目標1に付随する政策としては、「子育て家庭の支援」と14ページ「質の高い教育の推進」を掲げており、それぞれに対して、KPIを設定しております。

あわせて、資料3 平成30年度策定分をご覧ください。

申し訳ございませんが、ここで資料の修正がございます。平成30年度策定分の中で、中間目標値が「令和2年度」となっておりますが、正しくは「令和元年度」となりますので、修正をお願いいたします。

平成 30 年度策定分、基本目標 1 「親子がいきいき暮らせるまち」のなかで、数値がよかったものとしては、「ふれあい教室の待機児童数」と「話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりすることができていると答えた児童・生徒の割合」の 2 つです。

ふれあい教室とは、放課後等における安全確保及び保育支援のため、市内に在住する小学校 1 年生から 6 年生までの児童を対象とした、学童保育のことをいいます。平成 30 年度実績は、基準年の平成 29 年から 8 人減少し、また、先に行われました市内検討会にて、今年度当初には 0 人になったと報告を受けております。

話し合う活動を通じて、考えを深めたり、広げたりすることができていると答えた児童・生徒の割合は、平成 27 年度策定分と同様の内容となりますので、説明を割愛させていただきます。

続いて、総合戦略【改訂】の 15 ページをご覧ください。

基本目標 2 「働きたい」を応援するまちでは、地域産業の活発な活動を生み出すことを目標としています。

基本目標 2 「働きたい」を応援するまちの KPI は、「創業支援に基づく新規起業数」、「事業者向けセミナー開催回数」、「商店街空き店舗活用件数」の 3 つを挙げております。

資料 3 平成 30 年度策定分にお戻りください。

「事業者向けセミナー開催回数」及び「商店街空き店舗活用件数」については、一定の成果が見られつつありますが、創業支援に基づく新規起業数については、潜在的な将来の創業者の掘り起こしや育成に一定効果があったと考えられるものの、起業には結びつかなかったため、今後、いかにして起業に結びつく支援を行っていくかが課題だと考えております。

続いて、総合戦略【改訂】の 16 ページをご覧ください。

基本目標 3 もっと知りたい、ずっと住みたいまちでは、四條畷市の資源特性や特徴的な施策について、効果的、戦略的な方法を用いて、市内外にアピールを行っていきます。

基本目標 3 に関する KPI としては、「シティプロモーションサイトへのアクセス数」、「サテライトイベント参加者数」、「20 歳代から 40 歳代で「住み続けたい」及び「市内で他に移りたい」と答えた割合」の 3 つを挙げております。

資料 3 平成 30 年度策定分にお戻りください。

シティプロモーションサイトのアクセス数については、HP のリ

| | |
|----------------|--|
| <p>石 関 会 長</p> | <p>ニューアルと合わせて作成を行ったため、1週間しか数値測定が出来ませんでした。サテライトイベント参加者数については、従来から使用していた動画配信のプラットフォームの有料化に伴い、プラットフォームを変更したことなどから視聴者数が伸びませんでした。</p> <p>20歳代から40歳代で「住み続けたい」及び「市内で他に移りたい」と答えた割合については、今年度実施しております市民意識調査から数値を追っていくこととしております。</p> <p>説明は以上でございます。</p> <p>ただいま、事務局から説明がありましたが、何かご質問、ご意見等ございませんでしょうか。いかがでしょうか。</p> <p>(質疑なし)</p> |
| <p>石 関 会 長</p> | <p>それでは、続いて次第3 国の動向と本市の今後の対応について、事務局から説明をお願いします。</p> |
| <p>事 務 局</p> | <p>資料4 国の動向と本市の今後の対応についてをご覧ください。</p> <p>1 地方創生の現状については、次第1にてご説明した内容と重複する部分もございますので、要点のみ説明させていただきます。</p> <p>2 ページをご覧ください。</p> <p>こちらには、次第1にてご説明しました「まち・ひと・しごと創生法」について概要を示しております。</p> <p>3 ページをご覧ください。</p> <p>こちらには、第1期における地方創生の現状等について記載してございます。第1期とは、2015年度（平成27年度）から2019年度（令和元年度）までの5か年度をさします。</p> <p>第1期の地方創生の取組みでは、生産年齢人口が240万人減少した一方、就業者数は293万人増加しました。また、引き続き、人口の東京一極集中は継続しており、全人口の約3割が集中している状況にあります。地域経済の現状としては、雇用・所得環境が改善した一方で、中小企業において人手不足感が深刻化しております。</p> <p>続いて、4 ページをご覧ください。</p> |

4 ページには、地方創生と密に関わり合う少子化・人口減少問題に関する政府の主な取組をまとめております。

続いて、6 ページをご覧ください。

先ほどご説明しましたとおり、第1期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は2019年度（令和元年度）に終期を迎え、2020年度（令和2年度）から第2期の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づいた施策が開始されます。

国においては、2020年度（令和2年度）からの第2期「総合戦略」開始に向けて、本年6月に基本指針を策定し、12月に第2期「総合戦略」を策定する予定となっております。

また、12月に策定される国の第2期「総合戦略」に基づき、地方公共団体は、第2期地方版総合戦略を策定する必要があります。

続いて、7ページ、8ページには国の第2期総合戦略における新たな視点と、それを国の総合戦略の基本目標に組み込んだ形を示しております。

ページが飛びまして、10ページをご覧ください。

こちらは、令和元年6月21日閣議決定されました「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」の一部を抜粋しております。

こちらによりますと、地方人口ビジョンや総合戦略を最新の数値や国の動向を勘案しつつ、切れ目のない取組みが行える総合戦略の見直し、策定を行う必要がある旨記載されております。

最後に13ページをご覧ください。

ご説明いたしました国の動向と、それに関する本市の対応について簡単にまとめております。

総合戦略については、平成30年度に改訂を行い、本市総合戦略の終期が令和4年度までとなっており、切れ目なく施策が続いていくことから、今年度に新たな総合戦略の策定や改訂は行いません。これについては、国等の説明会のなかで問題がないことを確認しております。

また、人口ビジョンにおいても、総合戦略と連動しているため今年度の改訂は予定しておりません。

ただし、今年度の改訂は予定しておりませんが、国の動向や社会情勢の変化など、次年度以降に必要なに応じて改訂を行う可能性があることを申し添えさせていただきます。

説明は以上でございます。

| | |
|---------|--|
| 石 関 会 長 | <p>ただいま、事務局から説明がありましたが、何かご質問、ご意見等ございませんでしょうか。いかがでしょうか。</p> |
| 小 西 委 員 | <p>小西です。私は他の市の協議会にも参加させていただいております。第1期でのそれぞれの成果は一定出ておりますが、これを踏まえて第2期にどうするかということを考えていく形かと思えます。第1期と第2期では少し方向性が変わりつつあるのかなと感じております。第1期と第2期の方向性の違いで言いますと、第1期は各地域での人口争奪戦というイメージが強かったと思えますが、最近では、根本的な問題である出生率を上げること、これは地域でやることは難しいと思えますが、それに向けた、またそういった将来に向けた取組みを第2期ではやっという方向性になりつつあるのかなと思っております。目の前の改善できることというのは限られているので、5年後10年度を見据えて考えていく。日本全体で見て人口が減っていくことは避けて通れない部分ですけれども、それをいかに緩やかにしていくかというところが重要だと考えています。</p> <p>四條畷市でもそうかと思えますが、各項目でKPIを設定し、PDCAサイクルに基づいて変更する部分であったり調整する部分であったりを考えながら次のステップへと結び付けていくというのが基本になるかと思えます。特に四條畷市の場合は、JR学研都市沿線ですが、最近このJR学研都市沿線の状況が好転してきている状況にあると分析しています。新大阪駅へのアクセスが良くなりましたし、松井山手にも新幹線が通るという話も出ておりますので、もっと変わってくるかなという風を感じております。松井山手は京都府になりますが、大阪府内の枚方市からも近く駅前も大きく様変わりしてきており将来を見据えたまちづくりが進んでいると感じます。こういったところの発展というのは、将来の学研都市沿線の再興、魅力向上には必ずプラスになると思えます。交流人口や関係人口というかはわかりませんが、将来、それらが上がってくるのは間違いないと思うので、そういった状況の中で、いかに地域に定住、移住していただく方を取り込んでいけるかというのが一つの鍵になると思えますので、そういった将来や環境の変化を見据えた部分を取り込みながら考えていく必要があるのかなと思えます。幸いプラス要因が多くあるので、プラス要因を上手くいかせるような取組みを今後総合戦略に取り組んでいけば、なお効果が上がるのかなというふうに思いま</p> |

| | |
|----------------|--|
| | <p>す。以上です。</p> |
| <p>石 関 会 長</p> | <p>事務局、今の件について何かご意見ありますか。</p> |
| <p>藤 岡 部 長</p> | <p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>まさしく、小西委員におっしゃっていただきましたように、近年本市を取り巻く環境が大きく変化してきていると感じております。資料1の1ページをご覧ください。人口ピラミッドの分布図が掲載されております。左図は2010年ですが、現在2019年ですので、こちらから約10年分ピラミッドが上がっている状況かと思われま。そうなりますと、団塊の世代が70代に、団塊ジュニアの世代が50代になっていく、その帯の中で今後先の10年を考えた際には、地域経済という観点では、今からどういった取組みを行っていくべきかという視点は持たなければならないと認識しております。また、あわせて人口が減ってきている中で、国の総合戦略の中でも謳われておりますが、東京一極集中を解消していく必要もあります。大阪府の方では、副首都の構想も考えられていると聞き及んでおります。そういった中で、大阪府内にあります本市においても、大阪市内に近い位置にありベットタウンとして発展してきた経過がありますが、今後より一層の定住、移住を促進していくためには雇用であったり地域産業であったりということをしっかりしていかなないとなかなか魅力ある地域になっていかないのかなと思っております。これまでは、行政が出来ることを計画立てて実施してきましたが、これからは公民連携ということが鍵になると感じております。公民連携を進める中で、行政だけではなく、地域の金融機関を含めた事業者や住民がどいうった形で経済的な発展であったり、移住、定住であったりというのを全体的に推し進めていけるのかというのを検討していくフェーズにきているのかなと思っております。</p> <p>そういった中で、本市の第2期の施策としてましては、「親子がいきいきと暮らせるまち」、「働きたい」を応援するまちを「効果的に発信すること」により知名度を上げていく、という3つの柱となる戦略で考えております。</p> <p>少し長くなっておりますが、近年では、商工会青年部が開催しているオクトーバーフェストに象徴されるように、地域の住民が主体となり、地域の活性化に寄与されているという事例もありますので、一緒に公民という形で連携していけたらと考えておりま</p> |

| | |
|----------------|--|
| <p>石 関 会 長</p> | <p>すので、よろしく願いいたします。 長くなりましたが、以上です。</p> <p>他にどなたかご意見ございますでしょうか。</p> |
| <p>中 川 委 員</p> | <p>商工会の中川です。</p> <p>最近、精華町商工会が幹事になって、近隣の商工会議所である、北大阪商工会議所、奈良商工会議所、生駒商工会議所、京田辺市商工会、木津川市商工会などで会議をしまして、松井山手の新幹線やインフラの整備が整いつつあるので、2025年の万博に向かって何かできないかということで検討しています。次は第3回目の会議になるんですけれども、局長が出席していますが、これを青年部長も声がけて会議を開催しようかという話になっています。</p> <p>今、小規模事業者の平均年齢が69歳と言われているなかで、活性化や賑わいとなると若い方が創業できるような環境というのが必要だと考えています。そこで、インターネットの環境が進んでいますので、新しく建てるのではなく、空き室や空き家を利用して、たとえば忍ヶ丘の駅前でコワーキングスペースを作って若い人達が集えるようにしてはどうかと思っています。今、グランフロントにコワーキングスペースがあって、月3万か4万かぐらいだと思うんですが、スペースとしてはマクドナルドのような感じですよ。そういったところの方がアイデアが浮かんでくるそうです。梅田なので多少値段は高いですが、四條畷だったらもっと低い料金でできるんじゃないかなと。梅田までのアクセスもいいですし、工業団地を作るとなるとハード面で費用がかかるのでそういったことを考えてみるのもいいのではないかなと思っております。前職で守口門真商工会議所にいたんですけれども、その建替えて廃校した門真の中央小学校に1年間移転していたことがあります。役員や委員が来られると古い黒板を見て懐かしいなという声が多く挙がりました。2階、3階は結構空いていたので、そこに会社を入れたらどうかという提案もありました。今ならWi-Fiを入れておいたら仕事が出来ると思いますし、新しいものを作らなくてもスペースさえあれば活発な交流が生まれると思います。</p> <p>消費税の増税で廃業が増えてくると思います。これは全国どこでも流れは一緒です。精華町との懇談会でも課題はどこの府県で</p> |

| | |
|---------|---|
| | <p>も一緒だという話になりました。なので、大阪市内に人が行くのではなく、四條畷の魅力を出して、こちらに来ていただけるような市になればと思います。また、若い人には補助金などで足かせをつけるのではなく、自由にやらせてあげたらいいということも思います。</p> |
| 石 関 会 長 | <p>ありがとうございます。コメントなどはありますか。</p> |
| 上村副会長 | <p>少し話は変わるかもしれませんが、よろしいですか。 私どもは金網の製造を行っております。毎年小学校の3年生が社会見学ということで会社の方に来ています。この頃は、南小と岡部小と忍小が来ております。こちらには学校教育が非常に大事だと書かれておりますが、実際のところをご存じなのかなと思います。毎年それぞれの学校が1時間ほど滞在しております。小さな会社ですから20分から30分ぐらい、その後質疑応答に応える時間が30分でおよそ1時間ぐらいです。金網の製造と言いましても、会社によってさまざま、我々は受注生産ですのでちょうど機械が動いていない時間というのもあります。そういう時には子どもたちのために機械を動かしたり、切らなくてもいい網を切って見たりと、子どもに合わせた対応しています。ところが、今年の子どもたちは一生懸命話を聞いてくれた、またこの学校はいい学校だなと思ったら、次の年はそうではないんですね。予習もせずに急に連れて来られて1時間ぼーっと過ごして帰っていくというようなこともあるんです。先日、たまたま教育長にお会いする機会があり、実はこういうようなことがあって、私どもは子どもたちにちゃんと教えようとしているんだけど、実際のところ、教える側の先生たちが教えてくれないんですと。実際に来られる際には先生たちも予習をしてください、子どもたちが来られる前には、先生たちもお話を聞いていただく方がいいんじゃないかということをお伝えさせていただきました。そうすると、今年は先生たちも社会見学に来ていただきました。これは実際に子どもたちに教えるときにもものすごい差が出るんですね。もう何十年というスパンで私どもの方に社会見学に来ていただいておりますが、子どもたちではなく、教える側がきっちり教えてあげることが大事だと思います。小学校3年生だと先生の言うことはきっちり聞くとおもいます。教える側の先生たちがそういったことを学ぶための時間を取ることを考えていかないといけな</p> |

| | |
|---------|--|
| | <p>いのかなと思います。そういった点が社会見学を受ける私どもとしては残念なところかなと思います。</p> <p>もう1点は、金網業界に何十年と携わってきておりますが、私どもの業界の年齢層が高くなってきております。ところが、年齢層が高くても働いている間は非常に元気です。同じ年齢の方々よりも体力はあるし、本当に元気です。子育ても非常に大事だとは思いますが、高齢者も非常に元気ですなので、高齢者の働くところも考えていく必要があるのかなと感じております。それと同時に、定年の話もあります。年金のこともありますので、非常に難しい部分であり、流動的になってきておりますが、私どもは今年から定年を65歳にあげました。給料は60歳から上がりませんが、65歳までは現状の給料のままでいこうと決めております。それから以降については、退職金を支払っておりますが、そこから再雇用になるケースが多いです。今、働き方改革ということがよく言われていますが、高齢者の働き方改革というのも非常に大事なかなというのも考えております。</p> |
| 石 関 会 長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>教育現場の話は隣でお聞きしていて耳の痛い話でありました。教育現場の話で言いますと、今私は大学生を相手にしていますが、子どもの質というのが変わってきていて旧態依然とした教え方だと難しいのかなと感じています。本校でもそれに合わせて、子ども相手の活動であるなどいろいろと改革を行っております。</p> <p>事務局から何かございますでしょうか。</p> |
| 事 務 局 | <p>おっしゃっていただいた教育現場についてですが、先生方においては、業務の多忙、とりわけ子どもたちに向ける時間よりもそれ以外に取られる時間が多くなっているという現状がございます。本市におきましては、今年度先生方の事務作業を軽減するためのシステムであったり、ICTの機器の導入であったり、事務作業時間を出来るだけ短縮するために動いているところでございます。それによって子どもと向き合う時間、また教える内容の研究などに時間を取れるように取り組んでいきたいと考えてございます。</p> |
| 藤 岡 部 長 | <p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>中川委員におっしゃっていただいたようなコワーキングスぺ</p> |

| | |
|---------|--|
| | <p>ースのようなものの取組みというのは各市でも実施されているところであり、空き家の利活用というところと紐づくところかと思いますが、本市においても何かそういうことが出来ないかと考えていく必要があると感じております。また何かあればご協力いただきたいと思っております。</p> <p>また、上村委員におっしゃっていただいた2点、子どもの社会見学というところでは、子どもたちが地元の企業に行ってみ学することは非常に素晴らしい経験だと思っております。それについては、先生方の予習は非常に大事だと思っております。そういった意味では、教育委員会との連携ということになりますが、現在、総合教育会議というのを行っております、その中で連携を深めていけたらと考えております。</p> <p>もう1点、高齢者の働く場が必要であるということにつきましても非常に重要な視点であると考えております。やはり、家の中でずっと過ごされるよりも、外に出て活動する。それが労働に繋がっていきけるような地域にしていくことは行政としてもめざしていくべき姿の1つだと考えております。そういったことも含めまして、雇用、ひいては地域産業については従来の考え方だけでなく、今後の人口の分布も踏まえながら、地域の事業者や商工会の皆さまとご議論しながら考えていけたらと考えております。</p> <p>また、委員長の方からおっしゃっていただきました大学と小学校のコラボという形での連携、特にプログラミングの教育についてはご協力をいただいているところでもありますので、今後の子どもたちへの教育、ICTの能力開発という点に関しては今後ご協力いただけたらと考えてございますので、よろしく願いいたします。</p> |
| 石 関 会 長 | <p>ありがとうございます。他にどなたかございますでしょうか。</p> |
| 開 原 委 員 | <p>いつもお世話になっております。りそな銀行の開原と申します。</p> <p>働き方改革というのは、まさにわが社でも問題となっているところであり、すべてに繋がるところだなと感じているところです。</p> <p>先ほどお話のあった高齢者の方について、細かなこと、日々仕事をしていて実感することから申し上げさせていただきます。若い方だけでなく、お客様の中には高齢者も多くいらっしゃいま</p> |

| | |
|---------|---|
| | <p>す。最近よく耳にするのがキャッシュレスのことですが、他にも取り組んでいるところ、わが社の周りでも使えるところが増えてきておりますが、若い人からは「使えないと困る」という声がある一方、高齢者の方からは「こういうことになったら使いにくい」という声と両極端の声があります。皆さまご承知のとおり、地域や経済の活性化のためには、こういった新しい技術は必要となりますが、ではこういった世代間の差をどうしていくのかという問題があると思います。わが社の中でもこういった話をしておりますので、一緒に考えていけることはあるのかなと思います。若い人に住んでいただきたいというところと離れるかもしれませんが、もまだまだ元気な高齢者の方はいらっしゃいますので、そういった方をリードして頂けるような方を作っていくなど、早急に対応していく必要があると、日々のところから感じているところです。</p> |
| 石 関 会 長 | <p>事務局、何かありますか。</p> |
| 藤 岡 部 長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>キャッシュレスについては、本市でも実証実験という形で市民課の住民票や税務課の税証明などで使えるよう進めているところですが、件数的にはなかなか上がっていないという現状がございますが、今後こういった取組みはいろんなところで進んでいくのかなと考えております。</p> <p>キャッシュレスだけではなく、スマートフォンを含めた情報機器に関しては、高齢者の方に使っていただきやすい形にすることが課題の1つだと認識しております。</p> <p>たとえば、本市においても災害時において、土砂災害の警戒であったり避難の連絡であったりというのをホームページやツイッター、LINE で流しております。そういった有事に、市のLINEに登録していただくことが増えております。登録していただくと便利だとわかっていただけるんですけども、最初の登録や使用する際のハードルをどうやって下げていくのかを検討すべきだと考えております。</p> <p>ただ、情報通信白書によりますと、高齢者の方でもスマートフォン利用率も上がってきているという現状もございますので、そういったところも勘案しながら、今後検討していくべき課題だと感じております。</p> |

| | |
|---------|--|
| 石 関 会 長 | <p>他にどなたかご意見ございますでしょうか。 それでは最後に、その他として、事務局から何かありますか。</p> |
| 事 務 局 | <p>今後の予定としてましては、本日の会議の会議録案を作成し、皆さまにご確認いただいた後、会議録と平成 27 年度及び平成 30 年度の進捗管理シートをホームページにて公開させていただきます。</p> <p>また、会議録案の確認の際に、報酬をお支払いするための書類をいただく必要がある方には別途ご案内させていただきます。</p> <p>最後に、次回の総合戦略協議会は来年度の夏ごろを予定しております。日程等詳細が決まりましたら、今回と同様事務局からご連絡させていただきますので、その際はよろしくお願いたします。</p> <p>事務局からは以上でございます。</p> |
| 石 関 会 長 | <p>3 閉 会</p> <p>それでは、ただいまをもちまして、令和元年度第 1 回四條畷市総合戦略協議会を閉会します。</p> <p>皆様ありがとうございました。</p> |